

事業名：発表の場拡大事業

生涯学習課 生涯学習係

政策	05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実								
施策	04 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造								
基本事業	01 自主的市民文化・芸術活動の育成・支援								
開始年度	平成 6年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
市内の芸術文化連合団体に加盟する団体等	
手段（事務事業の内容、やり方）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・申請のあった団体の発表活動に要する施設基本使用料（原則として附属設備使用料は除く）を補助する。</li> <li>・「江別市教育振興事業補助金交付規則」及び「江別市芸術文化奨励補助金交付要綱」に基づき、江別市における芸術文化鑑賞の機会の充実を図るため、予算の範囲内で補助金を交付する。</li> </ul>	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
関係団体の発表活動が活発化し、市民の鑑賞機会が拡充する。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標 1	文化・芸術連合団体に加盟する団体数	数	100	108	115	128
対象指標 2						
活動指標 1	補助金額	千円	500	500	500	500
活動指標 2						
成果指標 1	制度を利用した発表回数	回	10	13	12	13
成果指標 2						
事業費 (A)		千円	330	477	468	500
正職員人件費 (B)		千円	401	401	391	391
総事業費 (A + B)		千円	731	878	859	891

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	・申請のあった団体の発表活動に要する施設基本使用料（原則として附属設備使用料は除く）を補助する。	・補助金 478千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
<p>本事業は、市民会館、文化ホール及び公民館を利用して発表活動を行う団体の経費負担軽減のため平成6年度に開始した。開始から約14年が経過している。当時と比べ、文化・芸術活動を行う団体数および活動量は増加している。なお、補助制度を利用する団体は、開始当初からおよそ10団体前後で推移しており、利用団体のジャンルとしては演劇や音楽団体が多い。</p>	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
妥当である 妥当性が低い	理由 根拠
団体が広く一般市民に対し文化・芸術の発表を行うことは公共性があり、施設利用の向上に連動するなど行政が支援することは妥当である。	
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由 根拠
文化・芸術活動を行う市民団体の目的は、自らの活動の発表の場を充実することにある。これを支援し、助長する取り組みは今後も大切である。	
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由 根拠
毎年10団体前後が当該制度を活用していることから、団体が自ら行う活動の成果としての発表の場づくりを支援する制度として定着していると言える。	
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由 根拠
現行制度では、ホール施設を中心とした活用が主であること、施設の基本使用料についての支援に限定していることから、補助の活用範囲に制限されるため、これらの条件を緩和することによって成果を上げることは可能である。	
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？	
ある なし	理由 根拠
施設利用料のみの補助であり、活用ニーズも多いことから、コスト削減は難しい。	